

第2回 世界遺産学習全国サミット 2011inなら

日本/ユネスコパートナーシップ事業



平成 23 年 12 月 24 日（土）、25 日（日）の 2 日間、全国規模の世界遺産学習の研究大会として「第 2 回 世界遺産学習全国サミット 2011in なら」を開催した。今年の全国サミットでは、「世界遺産学習子ども会議」をはじめ、世界遺産に関する講演会や世界遺産学習の実践報告会、市民対象の世界遺産学習会を行った。

世界遺産学習とは

世界遺産や身近にある文化遺産、自然環境などを通して地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手としての意欲や態度を養う学習

世界遺産学習 子ども会議 「わたしのまちのたからものを受け継ぐために」

姫路市立手柄小学校、奈良市立都跡小学校、長浜市立西中学校の児童・生徒 6 名が、奈良市の中室雄俊教育長のコーディネートで、「わたしのまちのたからものを受け継ぐために」について会議を行った。各校における学習の様子を発表した後、子どもたち一人一人が大切にしている「たからもの」について発言した。そして、「たからものを受け継ぐために大切なことは何か」を考え、話し合った。

終了行事では、それをまとめて「子ども宣言」として発表した。



世界遺産学習 講演会 「奈良の伝統行事に学ぶ」奈良国立博物館学芸部長 西山 厚 氏

春日若宮おん祭は、洪水や疫病などの災いが続いた 1136(保延 2)年、若宮様に「天下泰平・五穀豊穰・万民安楽」を願って始められた。以後一度の中断もなく、今年が 876 回目だった。社殿を出てお旅所に来られた若宮様に、さまざまな芸能を奉納して喜んでいただき、願いを成就させようとする行事である。

東大寺二月堂お水取りは、752(天平勝宝 4)年に実忠が始めた行法で、それ以来 1260 年間一度の中断もなく続いている。お水取りは本尊の十一面観音にお詫びをする行事である。昔の人は、災いは人が悪いことをするから起きると考えていた。だからやってしまった悪いことを詫びて、あわせて「天下安穏・五穀豊穰・万民豊楽」を祈願する。

おん祭は神様に喜んでいただくことで、お水取りは仏様にお詫びをすることで、みんなが幸せに暮らせるよう願う行事である。みんなの幸せを祈る。各地の伝統行事も同様である。そのことを忘れてはならない。



世界遺産学習会(1) 「平城京の深層」奈良文化財研究所副所長 井上 和人 氏



平城京や藤原京を発掘調査していると、大きな道路の側溝から板きれがたくさん出てくることがある。これを簀木(ちゅうぎ)と言い、お尻をふいた道具である。木簡は、完全な形で発見される木簡は 2 割で、ほとんどが断片になっている。これは、従来の理解では内容を読めないようにするための措置ということだが、それは簀木に転用されたためだと思っている。

次に、平城京が造られた理由は、当時の中国・唐は世界の中心であるとい中華思想があり、強大な軍事国家であったので、唐から日本を守るため、また唐に対する恭順の意を形として示すためと私は考えている。

世界遺産学習会(2)世界遺産学習を支える人々によるシンポジウム「今、子どもたちに伝えたいこと」

村田昌三氏（鼓阪北小学校地域コーディネーター）

日本人は昔から生活の中で自然を大切に育てて、自然とともに生きてきた。よい環境を子どもたちや後世に伝えることが私の夢である。

鈴木民子氏（奈良国立博物館）

文化・文化財を大切に思う人が多いほど、確実に文化財の寿命は延びていく。まずは、そのきっかけをつくっていききたい。

上田益世氏（NPO 法人なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀）

子どもたちに世界遺産のすばらしさを知らせていくことが大人の義務。世界遺産学習を通じて命の尊さ大切さ、生きることを意味を考え、素晴らしいものを未来に引き継いでいくというような子どもになってほしい。

西崎卓哉氏（奈良市文化財課長：コーディネーター）

世界遺産学習の目指すものは、みんなが笑って暮らすことのできる心地よい地域社会の構築と健全な人格の形成だと思う。我々大人が、地域の魅力と未来に残したいと思う心をしっかり伝えることが大切だと思う。



分科会での報告



分科会は、9つに分かれてそれぞれ2つずつ、合計18の実践発表が行われた。奈良市の幼稚園、小学校、中学校、高等学校のほか、岩手県平泉町、滋賀県長浜市、福井県小浜市、奈良県桜井市、兵庫県姫路市、福岡県大牟田市、京都や大阪からも発表者が参加した。地域の世界遺産や文化遺産、自然環境について学び、地域のよさを受け継いでいくESDの視点をもった先進的な取組が報告された。その後、活発に意見を交流し、学びを深めた。

第3回世界遺産学習連絡協議会 総会

平成21年度に、世界遺産や地域遺産などの優れた文化遺産や自然遺産を教育的に活用し、地域を大切に、誇りに思う心を養う世界遺産学習並びにESD（持続発展教育）の実践の交流と情報交換、及び研究大会の開催等の充実・推進を目的に世界遺産学習連絡協議会を設立した。現在、16の教育委員会と4つの学校が参加している。

12月24日（土）に開催された総会では、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長の浅井孝司様にオブザーバーとして出席いただき、各会員から教育実践・教育施策の報告の後、気仙沼市、長浜市、豊中市の3教育委員会と東大寺学園中・高等学校が新たに会員として承認された。また、平成24年度世界遺産学習全国サミットは、奈良市で開催されることが決定した。



【正会員】

深浦町（青森）、平泉町（岩手）、気仙沼市（宮城）、長浜市（滋賀）、斑鳩町（奈良）、橿原市（奈良）、桜井市（奈良）、堺市（大阪）、豊中市（大阪）、藤井寺市（大阪）、姫路市（兵庫）、大田市（島根）、大牟田市（福岡）、屋久島町（鹿児島）、読谷村（沖縄）、奈良市（奈良）

【学校会員】

奈良教育大学、奈良県立法隆寺国際高等学校、東大寺学園中・高等学校、羽衣学園高等部（大阪）

連絡協議会へのご参加をお待ちしております